

国際観光都市に向けた 常滑市の取組の方向性

- 1 常滑市の特徴1ページ
- 2 空港開港後の変化2ページ
- 3 現在の取組3ページ
- 4 国際観光都市に向けた展望4ページ
- 5 国際観光都市に向けた取組イメージ...5ページ



平成30年1月30日

常 滑 市

1 常滑市の特徴

○古くから「常滑焼」の産地として知られ、窯業は現在も主産業となっており、「やきもの散歩道」などの関連観光資源も豊富に存在する。家具・装備品、輸送機械のほか、農業、漁業、のり養殖も行われている。

○平成17年2月に中部国際空港セントレアが開港し、広域交通網が整備され、空港関連企業のほか、大規模商業施設やホテル等の立地が進む。

【常滑市の概要】

- ・人口 : 58,943人 (H29.12)
- ・面積 : 55.90km² (H29.4)
- ・主な産業 : 窯業、家具・装備品、輸送機械、漁業
- ・主な特産品 : 常滑焼、海苔、日本酒、いちじく



主な地域資源である常滑焼について

平安時代末期から焼き物の産地として知られ、瀬戸、信楽、越前、丹波、備前と並び、日本六古窯のひとつ。関連する観光資源も豊富に存在しており、常滑系招き猫の生産は日本一。その他、急須、盆栽鉢などの日用品も有名。



古常滑



朱泥の急須



やきもの散歩道



登窯



INAXライフミュージアム

2 空港開港後の変化

平成17年2月に中部国際空港セントレアが開港
 ⇒空港関連従業員等の転入(約37%が市内居住者:H26空港会社調べ)により人口は増加。
 ⇒税収、観光客数も大幅に増加している。

- 人口 : 50,945人 (H16.3)
 ⇒ **58,943人 (H29.12)**
- 世帯 : 17,046世帯 (H16.3)
 ⇒ **24,060世帯 (H29.12)**
- 外国人数 : 489人 (H16.3)
 ⇒ **1,183人 (H29.12)**
- 事業所数 : 2,809 (H13.10)
 ⇒ **2,590 (H28.6)**
- 従業者数 : 22,250人 (H13.10)
 ⇒ **30,730人 (H28.6)**
- 税収 : 約74億円 (H15年度)
 ⇒ **約117億円 (H28年度)**
- 観光客数 : 約131万人 (H20年)
 ⇒ **約261万人 (H28年度)**
 (空港除く)

☆商業施設等が立地し、買い物等が便利になりました。
 中部臨空都市や幹線道路沿いに、商業施設や飲食店などが立地したことにより、買い物等が便利になりました。

☆良好な環境の宅地が整備されました。
 「土地区画整理事業等の整備」により、良好な環境の宅地供給が進みました。
 ※①～⑤：土地区画整理事業地区

☆人口が増加しました。
 空港開港後、集合住宅や土地区画整理事業地区などへの空港関連従業員等の転入により増加を続けてきました。

☆働く場が増加しました。
 空港の開港及び中部臨空都市等への企業立地により、働く場が増加しました。

☆交通基盤整備が進み、利便性が向上しました。
 鉄道、道路といった空港アクセス等の整備が進み、交通利便性が向上しました。

3 現在の取組

<常滑市の現在の取組>

重点プロジェクト(抜粋)	主な取組
インバウンドを中心とした人が集うまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・常滑焼ブランドの普及・インバウンドの受入体制の充実・観光拠点整備の推進 など
中部国際空港の機能強化促進と中部臨空都市のまちづくり	<ul style="list-style-type: none">・国際展示場へのMICE誘致・中部臨空都市における企業等の誘致活動や魅力づくりの促進・中部国際空港の機能強化(完全24時間化:二本目滑走路の整備)や西知多道路の早期整備に係る国等への要望 など
まちの魅力を磨き発信するシティプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none">・国内外をターゲットとしたシティプロモーションの推進・日本遺産^{※1}の日本六古窯(常滑焼)や、醸造文化の活用・常滑市世間遺産^{※2}を巡る観光ルートの設定 など

※1 日本遺産 :地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。

※2 常滑市世間遺産:市の世間遺産認定事業において、誰の心の中にもある「未来に残したいもの大切にしたいもの=世間遺産」を募集し、約7千件の候補の中から、市内28区それぞれを象徴する神社や景色などを認定したもの。

<中部国際空港周辺エリアの位置付け>

空港島及び対岸部をエアフロント地区と位置付け、次世代の産業技術やライフスタイルが創造・発信される拠点として県等関係機関と連携して機能の充実を図ることとしている。

4 国際観光都市に向けた展望

- 本市は、古くは焼き物や酒蔵といった地場産業で発展し、近年は空港開設による新たなひとの流れや企業立地等呼び込んできた。
- 全国・世界からひとを呼び込むことは、まち全体の好循環を生み出し、地方創生にもつながる。
- 国際観光都市に向けて、まちの魅力向上、受入体制の整備等の取組を地域全体で一層推進し、訪れる方に常滑の良さ、日本の良さを感じていただけるまちにしていきたい。

昔ながらの街並み、古くからの地場産業、
変わらぬ空と海の景色を大切にしながら、
世界に開く国際観光都市として、日本の良
さを感じられる「おもてなし」のまちへ



〔常滑市版地方創生のイメージ〕



※「常滑市まち・ひと・しごと創生総合戦略」から抜粋

5 国際観光都市に向けた取組イメージ

将来の都市像

“感動を 次代につなぎ 世界に開くまち ところなめ”

～焼き物・海・空を生かして～

常滑市全域

- ・来訪者へおもてなしの提供
- ・地域一体となった受入体制の整備促進
- ・市街地と空港周辺地域との連携強化、各地区との交流促進
- ・国際人材の育成、国際交流の促進 など

空港周辺地域

- ・県等関係機関と連携したMICE誘致
- ・MICE産業や旅行関連業者の誘致
- ・新たな機能整備における地域製品の活用、海外へのPR
- ・雇用の場の創出 など

市街地

- ・地域資源の磨き上げ・情報発信
- ・陶芸体験や酒蔵開放の促進
- ・観光拠点整備の推進
- ・ショートトリップの推進 など

- ✓ 空港、空港周辺地域、市街地がもつ資源を最大限に活用
- ✓ 新しい空港周辺地域と昔ながらの市街地が共に発展
- ✓ 地元の機運醸成及び外国人来訪者の受入促進